

サクラバハンノキ	<i>Alnus trabeculosa</i> Hand.-Mazz.	準絶滅危惧
(環境省:準絶滅危惧)		カバノキ科
選定理由	生育地と個体数がかなり減少していて、更に減少すれば個体群の維持が危うくなり、絶滅する可能性が出てくる。	写真(清水英彦)
形態の特徴	高木で高さ20m近くにまで達することがある。葉は互生し、葉柄の長さ1-2.5cm、葉身は楕円形から倒卵状楕円形、鋭尖頭、鋭頭あるいは鈍頭、基部はくさび形、縁に細鋸歯があり、長さ(3-)5-13cm、幅(1.5-)3-6cm。花は葉の展開する前に咲く。雄花序は下垂、雌花序は小さくて上向き。果実序は球果状、長さ1.5-2.5cm、幅8-12mm。	
生態的特徴	湿地に生育する。花期は2-3月。	
分布状況	中国にもあり、日本では東北地方南部から西の本州と九州に分布する。岐阜県では県南東部と県北の中・西北部にある。	
減少要因	開発による湿地の破壊。	
保全対策	生育地の保全。	
特記事項		
参考文献		

文責:高橋弘